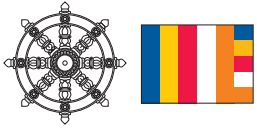


ZENBUTSU



念仏

No.
565

仏暦2553年12月
[2010年]



北海道札幌市 浄国寺のお地藏さま — 撮影 仏像ガール®

目次	加盟団体をゆく 第39回 浄土宗	2
	第41回 全日本仏教徒会議栃木大会	4
	最初の評議委員選定委員会	6
	第41回 全日本仏教徒会議栃木大会写真集	8
	第57回 全日本仏教婦人連盟大会	8

加盟団体をゆく

《第三十九回》浄土宗

今回は浄土宗宗務庁をお訪ねし、里見法雄宗務総長にお話を伺いました。浄土宗では平成二十三年に迎える宗祖法然上人の八〇〇年大遠忌に向けて様々な記念事業を展開中です。



里見法雄宗務総長

愚者の自覚を 己を省みて、己のいたらなさを知ろう
 家庭にみ仏の光を あたたかい家庭を築こう
 社会に慈しみを 優しさに満ちた社会を築こう
 世界に共生を 共に生きる平和な世界を築こう

浄土宗21世紀劈頭宣言

法然上人八〇〇年大遠忌に関する記念事業・取り組みの中で特に力を入れていく点に関してお聞かせ下さい――

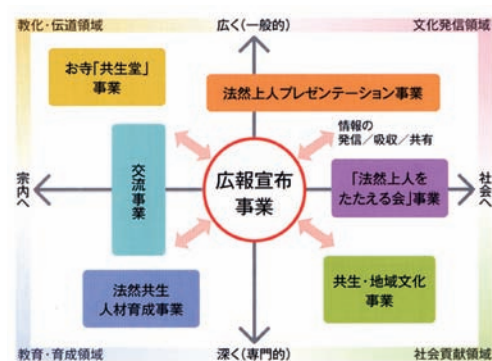
宗祖法然上人の教えの到達点は何よりも自らの至らなさを見つめる「愚者の自覚」でした。浄土宗では二十一世紀を迎えるに当たりすべての人々の幸せを願って二十一世紀劈頭宣言を発表いたしました。始めの句に「愚者の自覚を」と配置しています。

そして、この法然上人八〇〇年大遠忌は、宗祖の恩徳を拝して、そのみ教えを普く開顕するとともに、この劈頭宣言の精神を具現化する絶好の機会ととらえ、委員会等で慎重に検討いただき、僧侶のみならず檀信徒や多くの皆様が「参加・体験」できる七大事業を計画いたしました。(図一) 事業は詳細化すると四十三事業に亘り、

すでに終了した事業もありますが、現在、二十六事業を推進しているところですが、(平成二十二年十一月一日現在)

また、浄土宗が直接取り組む記念事業としての位置付けではないのですが、総本山知恩院や、増上寺・金戒光明寺・知恩寺・清浄華院・善導寺・光明寺・善光寺大本願の七つの大本山をはじめ、全国の寺院で「八〇〇年大遠忌法要」が営まれますこともご紹介いたします。「法然上人報恩謝徳」のために、各寺院で盛大に営まれます。さて、浄土宗が取り組む七大事業ですが、まず、寺院が地域の「対話」と「交流」の場として、より開かれたものになるように取り組んでおりますのが、「お寺」『共生堂』事業」、東京から京都までの旧東海道をリレーでつなぐ念仏行脚や、中央檀信徒大会等を行うのが「交流事業」です。また、「共生・地域文化事業」では、地域の社会課題の解決に向けて、地域の市民活動団体と寺院の結びつきを深めようとNPO等の表彰・助成を行っております。

そして、「法然上人プレゼンテ



宗祖法然上人800年大遠忌記念事業の全体像(図1)

ーション事業」は法然上人を顕彰し、み教えを正しく、わかりやすく伝えるために行っている事業です。五重相伝の開筵推進、「法然共生」フォーラムや法然セミナーの開催、法然上人の代表的な御伝記であります『法然上人行状絵図』(国宝)のデジタル化、『浄土宗三部経』『法然上人行状絵図』の現代語訳化等を行っております。浄土宗に関する経典・書物等が網羅されている『浄土宗全書』(第一巻から二十巻)のテキスト化は、その成果として、膨大な文献の検索が容易となり、法然上人とそれ以前の浄土教研究に大いに役立つことが期待できます。こちらは平



750年大遠忌法要の様子（総本山知恩院）

成二十二年度中にインターネット上で公開する予定です。

経典を文字で読むだけではわかりにくい、という感想を檀信徒や一般の方々から数多くいただきました。例えば、もし『阿弥陀経』で説かれている極楽世界のCG化やアニメーション化が行えれば、視覚に訴えることができますので、非常に我々も説明しやすいですし、皆様も理解しやすいのでは、と思います。これは個人的な将来の夢でありますが、今後も、現代の技術を取り入れながら、み教えをわかりやすく正しく伝えるための取

り組みを進めていきたいと思っております。

これらの取り組みに加えて、「法然上人人材育成事業」では教師養成・再研修に関する事業を、「法然上人をたたえる会事業」では、法然上人を慕っていたにいたる各界の著名人に会員になっていただき、学校や寺院等を訪問する「出前寺子屋」や、会員の熱い想いをDVD化して社会にお届けしております。（各事業の相関図は図一を参照）

五十年前の七五〇年大遠忌は戦後分裂してしまっていた浄土宗が再び一つになるきっかけとなった記念すべき大遠忌でしたが、それから五十年の時を経て、社会は大きく変わっています。また、これから寺院が新たに組みまなければならないことや、本来行っていたのに今疎かになっていることもあります。

この度の八〇〇年大遠忌終了後、記念事業の成果をどのように各寺院にフィードバックしていくか、また、寺院の社会化や社会福祉などの社会課題にどう取り組んでいくのが問われると思いますが、

劈頭宣言の理念の具現化に向けて、宗団一丸となって努力を続けていきたいと思えます。

—現代社会に対する思いをお聞かせ下さい—

現代社会は核家族化が進んでしまい、その一番の問題として感じるのは親が子供の育て方を知らない、という問題です。

かつては大家族で、教育のノウハウも自然と両親に身に付いておりましたが、今は例えば赤ちゃんが泣いている場合も、両親ともにどうして泣いているのかわからず、親がパニックになってしまったり、育児に過度の精神的ストレスを感じてそれが児童虐待につながってしまったたり、と様々な弊害が生じてしまっておりま。

そうした問題に対して、寺という設備を利用して何か貢献ができないか、育児負担やストレスの軽減ができないか。今後もできるかぎり寺の敷居を低くして、寺が社会問題に寄り添う環境を整えることが重要だと考えております。

—仏教界に対する思いをお聞かせ下さい—

日本の伝統各宗派は、当然宗祖の教義を布教することが宗派の大きな目的だと思います。しかし、それと同じくらい社会的な貢献も大切であり、宗祖の教義の布教と社会的貢献を両輪として進んでいかなくてはならない、と思います。若い教師（僧侶）の声に耳を傾けますと、「社会貢献がしたい」という声を沢山聞きます。しかし、具体的に何をしたいのかわからない、という方が多いように感じます。

これに対し、宗派でマニュアルを作成し教師や寺院に示す事ができれば寺院が動き、社会が動き出します。事業を展開する事を通じて「社会貢献の為に何をすればいいか」という道筋を示したいと強く感じております。

また、宗派が使える予算や人員には当然限りがありますので、実現可能で具体的な社会的貢献を進めていく事が肝要だと思います。

浄土宗ホームページ

<http://www.jodo.or.jp/>

第四十一回全日本仏教徒会議栃木大会開催される

——慈悲の心 「社会参加仏教」をテーマに、

栃木の地に二千人が参集——

大会テーマの下に大会初日となる十一月九日は宇都宮グランドホテルにて開会式、シンポジウム、

加盟団体代表者会議、交流懇親会が行われ、翌十日には宇都宮市文化会館にて開会式、法要、舞踊、特別講演、大会宣言、閉会式が行われ、延べ二千人が参集した。

第一日目 開会式

開会式は十一月九日十二時三十分より行われ、菅原栄光大会長を導師に、河野太通本会会長を協導



菅原栄光栃木大会会長（中央左）
河野太通本会会長（中央右）

師に法要が厳修された。

法要後、菅原栄光大会長は伝教大師最澄の『山家学生式』の一節を挙げて大会テーマの慈悲の心を説明し、開会挨拶を行った。

続いて有田恵宗本会理事長が「各加盟団体が大慈大悲の心をつつしなれば人類の意識の高揚に寄与することはできない」と祝辞を述べた。

シンポジウム

同日十三時三十分より「社会参加仏教の課題と展望」Ⅱエンゲージドブディズム」をテーマにしたシンポジウムが行われた。コメンテーターとして山折哲雄氏（宗教学者）、パネラーとして金子昭氏（天理大学教授）、ランジヤナ・ムコパディヤ氏（デリー大学教授）が参加、コーディネーターを山口幸照師（高野山大学准教授）がとめた。

山口師は「仏教教団が内外からの風圧に対してどのような方向性を示していくか。新宗教から謙虚に学ぶ必要もあるのではないか」とシンポジウムの趣旨について説明。

ランジヤナ・ムコパディヤ氏は国内外のエンゲージド・ブディズム（社会参加仏教）の事例を紹介。各教団は「自己批判をする位の気持ちが無いと自己満足に終わってしまう、社会的評価を得られない」と述べた。

金子氏は台湾「慈濟会」の活動や組織について詳しく解説。その自発性や啓発性、主体性には学ぶべき点が非常に多いとして、「僧侶は評論家や仕切り役ではなく良きコーディネーターになり、在家信者や一般の人々を巻き込んで活動を任せる度量の大きさを」と提言した。これら発表を受け山折氏は時代の変化により日本がかつてない長寿社会を迎えたことや、女性の時代が到来しているという時代背景を指摘。

また、「僧侶と在家の生活様式に違いが無くなってきているのに、何故出家主義に固執するのか？」

と伝統教団に問いかけ、厳しい自己評価や教団の活性化のために住職の公募を行うべき、と提案した。各氏の発表終了後、パネルディスカッションと質疑応答が行われた。

交流懇親会

シンポジウム終了後、交流懇親会が開催された。パロップ・タイアリーWFB事務総長他、来賓各位の祝辞の後、宇都宮の名物である日本酒・カクテルと餃子が振る舞われた。清興としてジャズの演奏とチアリーディングが披露される中、参加者は懇親を深めた。

第二日目 記念式典

翌十日、宇都宮市文化会館にて



大矢實圓副会長の発声により乾杯が行われた

記念式典が行われた。関根英尊大会副会長の開会の辞の後、世界平和を祈念して法要が行われた。

法要後、菅原栄光大会長、河野太通本会会長の挨拶、パン・ワナムッテイWFB会長の祝辞をパロップ・タイアリーWFB事務総長が代読するなど来賓よりの祝辞が披露された。祝電披露の後、日光山輪王寺に伝承される秘舞「延年の舞」が披露された。

記念講演

船村徹氏の記念講演「我が演歌の人生考」及びステージ演奏が行われた。(瀬戸内寂聴師の特別講演は当人の体調不良により中止)地元出身の柴田トヨさん執筆の詩集「くじけないで」の中の詩で作曲された曲も演奏された。

閉会式

大会宣言を決議した後、塚田宗雄大会実行委員長より次回(平成二十五年)開催地である高野山真言宗、備前島賢光高野山東京別院寺務長へと大会旗が手渡され閉会となった。(関連写真は八頁に掲載)

加盟団体代表者会議開催

十一月九日十五時二十五分より、第一回加盟団体代表者会議が第四十一回全日本仏教徒会議栃木大会と併せて開催され、各加盟団体代表者三十八名が出席し、十七時十五分まで会議を行った。

冒頭、本会議において議事の内容となる、公益財団法人移行後の本会の組織や運営について事務総局から概要説明を行った。特に、新たに設けられる「代議員制度」については設置の経緯を次のように報告した。

現行の「加盟団体代表者会議」は、各代表者から闊達な発言があるものの、宗派と都道府県仏教会或は仏教団体というそれぞれの立場において、協議事項の解釈や対応の共有が必ずしも図られていないという問題があった。また、公益財団法人移行のため制定される定款では、現在より理事と評議員の定数が減員するため、加盟団体からの幅広い意見や提言を本会事業に反映することが難しくなるという問題がある。

この度の、公益財団法人移行を契機として「加盟団体代表者会議」と「都道府県仏教会代表者会議」を発展的解消し、「加盟宗派代議員会議」と「都道府県仏教会・仏教団体代表者会議」を設置する。それぞれの会議において協議・意見集約を行う方針を決定した。

新たに設けられる二つの代議員会議には理事二名が役務理事としてそれぞれ就任することになり、代議員会議での報告及び意見を集約し、理事会において協議することができると報告した。

これにより、本会の事業全般に代議員会議の意思を反映させることが可能となる。つまり、この二つの代議員会議を設置する事により、各加盟団体は現在以上に直接的な本会の運営に参画できることになる。

なお、この二つの代議員会議は、より柔軟で機動力のある会議が行われるべき性質を持つため、会議規則は別途規程を設けることとなる旨も併せて報告された。

会議中、この新たな制度に対する多くの意見交換が行われた。ま



加盟団体代表者会議の様

た、会議後半では各加盟団体代表者により代議員会議への理解を深めてもらうため、「模擬代議員会議」が行われた。

模擬代議員会議では会議のおおまかな流れをシミュレーションすることにより実際に代議員会議を各参加者に体験してもらい、多数の了解を得て議事を終了した。

閉会挨拶として戸松事務総長より、

「今後各加盟団体代表者の皆様には益々の負担をかけることにはなるが、代議員としての役割は直接本会の運営に関連してくるため非常に大きなものとなる。どうかご理解とご協力をお願いする。」と述べ、会議を終了した。参加者はその後交流懇親会へ出席した。

最初の評議員選定委員会開催

十一月一日午前十時より、本会議室に於いて最初の評議員選定委員会が開催された。

選定委員として、小川聡国際医療福祉大学三田病院病院長（外部委員）、草場真也大和証券常務取締役（外部委員）、大谷義博真宗仏光寺派宗務総長（現行評議員）、稲井弘宣静岡県仏教会会長（現行監事）、奈良慈徹全日本仏教会総務部長（事務総局員）の五名が出席。事務総局より戸松義晴事務総長、垣内善勝財務部長、東田樹治総務部次長が出席した。

まず戸松事務総長が、本年十月二十六日付で文部科学大臣より「最初の評議員の選任に関する理事の定め」について認可を受けた等、本日の委員会開催までの経緯を説明。その後財務部長より各議案について説明を行った。

第一号議案の「委員長を選出について」は、事務総長が互選により本委員会の委員長を選任するよう求めたところ、全会一致で大谷

義博委員が委員長に選出された。

続いて第二号議案「最初の評議員の選任について」は、垣内財務部長から本年九月十六日の理事会・評議員会・参与会で承認された公益財団法人定款における評議員および評議員会の有する権限、規定の内容について説明。

次に、本会の公益財団法人移行後の最初の評議員候補者について資料を基に、各候補者の経歴、選任理由、本法人および本法人の理事・監事との関係など、評議員候補者に関する情報等の補足説明があった。

慎重審議の結果、候補者十名全員を、公益財団法人移行後の最初の評議員に選任することを出席委員全員一致で可決した。



最初の評議員選定委員会

インパクト・インベストメント ～投資を通じた社会貢献～ 大和証券の取り組み

◆インパクト・インベストメント

欧米では今、“インパクト・インベストメント (Impact Investment)” という新たなトレンドが動き出しています。インパクト・インベストメントとは、経済的な利益を生み出すと同時に、貧困や環境などの社会的課題に対して、より直接的で即効性のある解決を目指す投資のことです。投資リターンのみならず社会的リターンも期待できる、新しい投資のかたちといえます。

◆社会的課題の解決に向けて-大和証券の取り組み-

大和証券ではこれまで、調達資金をマイクロファイナンス(貧困層向け小規模金融サービス)に活用する『マイクロファイナンス・ボンド』等、社会貢献につながるインパクト・インベストメント商品を販売してきました。資金を必要としている人と資金を持つ人をつなぐという証券会社本来の役割を通じ、投資家の皆さまとともに、貧困をはじめとするさまざまな問題の解決に寄与していきたいと考えております。

冊子 無料進呈

未来を創る投資
インパクト・インベストメント
～投資を通じた社会貢献～

ご希望の方はFAXもしくは
ハガキにてお申込みください。

※2010Autumn版をお届けいたします。

請求先：大和証券(株)
法人サポート部 公益法人担当係
宛 先：〒100-6752 東京都千代田区丸の内1-9-1
グラントウキョウノースタワー
FAX：03-5555-0701
ご記入事項：貴法人名、所在地、お電話番号、
ご芳名、所属・ご役職

※数に限りがございますので、品切れの際はご容赦ください。
※ご記入いただいた情報は、当社または関連会社、提携会社の商品・サービス等のお客さまへのご案内、および商品開発やサービス向上のために利用させていただくことがございますので、あらかじめご了承ください。



大和証券

Daiwa Securities

※インパクト・インベストメントの詳細は、大和証券ホームページ内の特集ページでご覧いただけます。
※全日本仏教会ホームページの賛助会員一覧「団体会員 大和証券(株)法人サポート部」からもご覧いただけます。

www.daiwa.jp/impact

大和証券ホームページ www.daiwa.jp

事務総局録事

十月(十一日～三十一日)

- ▼十二日 妙智會教団開教六十周年記念式典出席(ホテルニユーオータニ幕張)
- ▼朝日ビジネスソリユーシ ヨン木村氏来局
- ▼十三日 全日本葬祭業協同組合連合会第五十五回福岡大会に出席(グランド・ハイアット福岡)
- ▼文化庁文化部宗務課 調査係長富田氏と面会(文化庁宗務課)
- ▼スリランカ アリヤラトネ氏来局
- ▼十四日 全日本仏教徒会議栃木大会実行委員会に出席(観専寺)
- ▼十五日 第三回宗教教育推進委員会
- ▼局内会議
- ▼東映(株)富永氏来局
- ▼十八日 宗教法人審議会出席(文化庁宗務課)
- ▼自由民主党佐藤ゆかり事務所森氏来局
- ▼朝日ビジネスソリユーシ

ヨン木村氏来局
十九日 日本宗教連盟第三回理事會出席(於 本会会議室)

- ▼同宗連第二十五回教団行 政責任者研修会出席(からすま京都ホテル)
- ▼全日本宗教用具協同組合平成二十二年度全国研修会に出席(メルパルク京都)
- ▼第三十回国際永久平和祈念祭典10出席(NHK大阪ホール)
- ▼二十日 新宗連大和教団平松事務局長来局
- ▼二十日 東映(株)村松氏・岡部氏来局
- ▼二十七日 浄土宗取材
- ▼真宗大谷派取材
- ▼真宗大谷派東京宗務出張所田代所長・大谷次長来局
- ▼大矢副会長来局
- ▼二十八日 野村証券来局
- ▼仏教伝道協会古澤氏・新野氏来局
- ▼朝日ビジネスソリユーシ ヨン木村氏来局
- ▼二十九日 妙智會宮本けいし理事長来局

十一月(一日～十日)

- ▼一日 全日本仏教徒会議栃木大会実行委員会に出席(観専寺)
- ▼最初の評議員選定委員会
- ▼部落解放・人権政策確立要求中央実行委員会第二十七回拡大役員会出席(松本治一郎記念館)
- ▼二日 全日本仏教婦人連盟第五十七回大会出席(ザ・プリンスパークタワー東京)
- ▼五日 藤谷光信参議員秘書脊尾氏来局
- ▼八日 栃木県仏教会会長主催懇親會開催(千姫物語)
- ▼九日 第四十一回全日本仏教徒會議栃木大会(宇都宮グランドホテル)
- ▼平成二十二年度第一回加盟団体代表者會議開催
- ▼十日 第四十一回全日本仏教徒會議栃木大会式典(宇都宮市文化会館大ホール)

表紙写真紹介

「北海道札幌市 浄国寺のお地藏さま」

以前、講演をさせていただいた
め、北海道のお寺さんに訪れまし
た。そろそろ講演がはじまるとい
う午後。窓から外を眺めていると、
ばらばらと雪が降ってきました。
横浜に住む私にとってはとてもひ
さしぶりな雪だったので、嬉しく
てあわてて外に出ました。

境内に出ると、白い雪が舞い散
る中、まっすぐに立っている赤い
帽子のお地藏さまに目がいきまし
た。山門の横で、参拝される方を
見守っていらっしやるお地藏さま
です。ああ、雨が降っても、雪が
降っても、お地藏さまはここにい
らっしやるんだ。そんな当たり前
のことに、ハッとしました。

私たちは、雨が降ったら屋根の
下へいき、雪が降ったら暖房の前
にいく。いつものようにやってい
ることが、なんだか少し申し訳な
く感じました。いつ何時でも仏さ
まは私たちを見守ってくださって
いることに、改めて感謝した雪の
日の午後でした。

仏像ガール®

無料法律相談室

長谷川正浩弁護士、
第二、第四木曜日の
午後開催しております。
本会事務局03(3437)9275へ事前予
約の上おいで下さい。

第41回全日本仏教徒会議栃木大会写真集



シンポジウムにて講演する山折哲雄氏



宇都宮文化会館にて挨拶を行う河野太通会長



船村徹氏による記念講演の様様



大会旗が高野山真言宗備前島賢光師へと手渡された

第57回全日本仏教婦人連盟大会開催

11月2日、ザ・プリンスパークタワー東京にて、全日本仏教婦人連盟第57回大会が開催され、約200名が参集した。本会からは戸松義晴事務総長が出席した。

第1部では、浄土宗大本山善光寺大本願法主の鷹司誓玉名誉会長を導師、全日本仏教尼僧法団の有志を式衆に法要を厳修。法要終了後、鷹司法主の垂示では、「家族の絆を強くし、隣近所同士が声をかけ安否を訪ねあう優しい世の中を作り上げる努力を」と呼びかけた。

大賀美都子副会長の挨拶ののち、来賓挨拶として戸松義晴本会事務総長が「布施の精神の具現化、仏教界の社会的役割を示す意味でも女性の力が重要」と期待を述べ、続いて。八木季生増上寺法主も「女性の慈悲の心を多くの人の生活に与えてほしい」と述べた。

次いで末廣久美副会長より、印度山日本寺第3次事業寄付金として100万円が安田暎胤国際仏教興隆協会理事長に贈られた。第3次事業としては、仏教学東洋学研究所の建設が計画されている。

また、当日会場で集めた「心の募金」では、集まった浄財・募金の23万円が被災地NGO協働センターに贈られた。

第2部では各宗派の御詠歌が披露され、終始和やかな雰囲気の中懇親会が開催された。



物故者追悼法要が営まれた